

[平成15年度設置]

大阪成蹊大学

設置に係る留意事項実施状況報告書

学校法人 大阪成蹊学園
平成19年4月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 大阪成蹊大学 事務局

職名・氏名 事務局長 サトウ ミノル 佐藤 稔

電話番号 06-6829-2535

（夜間） 同上

F A X 06-6829-2597

e-mail jim@osaka-seikei.ac.jp

目 次

1 留意事項に対する履行状況等	-----	1
-----------------	-------	---

2 情報提供に関する事項【省略】		
------------------	--	--

1 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>芸術学部については、実技指導に支障がないよう、教室利用プランに配慮すること。</p>	<p>平成15年度開学時は、芸術学部1年生、3年生と短期大学2年生、専攻科2年生が在籍しており、それらに対応する講義室、演習室、実習室を添付資料1の配置図にあるように確保している。主に教養科目や学部共通科目の講義、演習を行う講義室、演習室は大学・短大で共用し、各学科、領域の専門科目の学習に必要な演習室、実習室は在学生の固有なクラスルームとして配置している。</p> <p>完成年度の平成16年度については、芸術学部1年、2年、3年、4年生に対応した講義室、演習室、実習室を添付資料2にあるように確保している。学部共通の教養科目や学部共通科目の講義、演習は本館棟の講義室、演習室を計12教室を利用し、学科の専門科目は基本的には領域ごとや工房ごと、学年ごとの演習室、実習室、また特別教室として情報処理学習施設3教室を配置することにより完成年度の教室計画としている。⑮</p> <p>平成16年度は、平成15年度の計画通り、短期大学実習室ならびに芸術学部・短期大学共通実習室を芸術学部実習室として仕様を変更し、芸術学部の実技指導に支障のないよう配慮した。⑯</p> <p>平成17年度においても、完成年度である平成16年度に当初計画のとおり芸術学部の実習室を仕様変更したことにより実技指導が支障なく実施されたことを受けて、平成17年度においても支障なく実技指導がより一層行えるよう配慮している。⑰</p> <p>平成18年度においても、完成年度である平成16年度に当初計画のとおり芸術学部の実習室を仕様変更したことにより実技指導が支障なく実施されたことを受けて、平成18年度においても支障なく実技指導がより一層行えるよう配慮している。⑱</p> <p>平成19年度においても、完成年度である平成16年度に当初計画のとおり芸術学部の実習室を仕様変更したことにより実技指導が支障なく実施されたことを受けて、平成19年度においても支障なく実技指導がより一層行えるよう配慮している。⑲</p>	
<p>認 可 時 (14年12月19日)</p>	<p>編入学生の受入れについては、学科の設置の趣旨に沿った既修得単位の認定及び履修上の配慮に努めること。</p>	<p>芸術学部の平成15年度入学者104名は、全員が同系列同分野の卒業生だったため、既修得単位のうち62単位は一括認定し、最大72単位までは、個々の既修得状況により認定を行った。また編入生には、4月6日から3日間オリエンテーションを実施し、履修ガイダンスにおいて、きめ細かい個別の履修指導を行った。⑮</p> <p>芸術学部の平成16年度入学者84名は、平成15年度同様、個々の既修得状況により単位認定を行った。また、平成16年度は延べ5日間にわたるオリエンテーションを実施、個別の履修相談にも学部全教員体制で対応した。⑯</p> <p>芸術学部としては、平成17年度は完成年度後の編入学生を受入として6名を受け入れた。既修得単位の認定については、平成16年度と同様に個々の修得状況により認定を行った。また5日間にわたるオリエンテーションを実施し、個別履修相談をすることで対応している。</p> <p>現代経営情報学部としては、開設3年目を迎え、初の編入学生受入として12名を受け入れた。既修得単位の認定については、個々の修得状況により認定を行った。またオリエンテーションを実施し、個別履修相談をすることで対応している。</p> <p>スポーツ学部では、編入学生を設置の趣旨等を踏まえ、定員の4</p> <p>芸術学部としては、平成18年度は完成年度後の編入学生を受入として2名を受け入れた。既修得単位の認定については、平成17年度と同様に個々の修得状況により認定を行った。また4日間にわたるオリエンテーションを実施し、個別履修相談をすることで対応している。</p> <p>現代経営情報学部としては、編入学生を16名受入れ、既修得単位の認定については、平成17年度と同様に、個々の修得状況により認定を行った。編入学生を対象としたオリエンテーションを実施し、個別に履修相談を受け付け、対応している。</p> <p>スポーツ学部では、既修得単位の認定について個々の修得状況により認定し、編入学生39名（生涯スポーツ学科24名、競技ス</p> <p>芸術学部としては、平成19年度は完成年度後の編入学生を受入として7名を受け入れた。既修得単位の認定については、平成18年度と同様に個々の修得状況により認定を行った。また5日間にわたるオリエンテーションを実施し、個別履修相談をすることで対応している。</p> <p>現代経営情報学部としては、編入学生を14名受入れ、既修得単位の認定については、平成18年度と同様に、個々の修得状況により認定を行った。編入学生を対象としたオリエンテーションを実施し、個別に履修相談を受け付け、対応している。</p> <p>スポーツ学部では、既修得単位の認定について個々の修得状況により認定し、編入学生18名（生涯スポーツ学科8名、競技スポーツ学科10名）受け入れた。⑲</p>	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	大阪成蹊女子短期大学児童教育学科幼児教育学専攻の定員超過の是正に努めること。	<p>平成10年度から平成14年度の5年間の入学定員超過率の平均値は、1.40であったが、過去の入試データを綿密に分析・検討し、各試験の歩留まりを慎重に勘案した結果、平成15年度は、1.27の超過率に留めることができた。^⑮</p> <p>平成16年度については、さらに改善を図り、超過率を1.26に留めた。^⑯</p> <p>大阪成蹊短期大学の児童教育学科幼児教育学専攻については平成16年度の超過率は1.26となったが、平成17年度の超過率についても1.22に抑えた。^⑰</p> <p>平成18年度の超過率については、1.17に抑えた。^⑱</p> <p>平成19年度の超過率については、1.02に抑えた。^⑲</p>	
認 可 時 (14年12月19日)	大阪成蹊女子短期大学児童教育学科幼児教育学専攻の推薦入学の在り方について検討すること。	<p>推薦入学の在り方、とりわけ試験入学との入学者数の配分については、毎年度検討をしているが、当該学科専攻に対する応募者が多く、推薦入学枠の拡大への高校側の強い要請と試験合格者の歩留まり等の変動から、十分な結果が得られていない。^⑮</p> <p>推薦入学の在り方、とりわけ試験入学との入学者数の配分については、高校側の強い要請と試験合格者の歩留まり等の状態を考慮しながら、十分に検討している。^⑯</p> <p>昨年同様に、推薦入学の在り方、とりわけ試験入学との入学者数の配分については、高校側の強い要請と試験合格者の歩留まり等の状態を考慮しながら、十分に検討している。^⑰</p> <p>昨年同様に推薦入学と試験入学との入学者数の配分については、高校側の強い要請と試験入学合格者の歩留まり等の状態を考慮しながら、十分に検討している。^⑱</p> <p>昨年同様に推薦入学と試験入学との入学者数の配分については、高校側の強い要請と試験入学合格者の歩留まり等の状態を考慮しながら、十分に検討している。^⑲</p>	<p>平成16年度入試に際しては、推薦入学の在り方について、方法・入学者数等、試験入試との関連において、十分に検討し是正をはかっていきたい。^⑮</p> <p>今後とも、入試計画の策定に際しては、推薦入学の在り方について、実施方法・試験入試との関連等において、十分に検討を行っていく。^⑯</p> <p>昨年に引き続き今後とも、入試計画の策定に際しては、推薦入学の在り方について、実施方法・試験入試との関連等において、十分に検討を行っていく。^⑰</p> <p>入試計画の策定に際しては、推薦入学の在り方について、実施方法・試験入試との関連等において、十分に検討を行っていく。^⑱</p> <p>入試計画の策定に際しては、推薦入学の在り方について、実施方法・試験入試との関連等において、十分に検討を行っていく。^⑲</p>
	大阪成蹊女子短期大学国文学科、英文学科、デザイン美術科、成安造形短期大学について、平成15年4月1日付学生募集停止すること。	<p>国文学科、英文学科、デザイン美術科、成安造形短期大学については、平成15年4月1日付学生募集停止。^⑮</p> <p>大阪成蹊短期大学国文学科、英文学科、デザイン美術科及び成安造形短期大学については、平成15年4月1日に学生募集を停止した。この内、大阪成蹊短期大学国文学科、英文学科、デザイン美術科は、平成16年3月に在学学生全員が卒業したことに伴い、文部科学省への廃止申請を提出すべく現在学内において手続中である。なお、成安造形短期大学は、平成15年度に単位習得不足により、結果13名が平成16年度に在学することになったため、この留年生の卒業を待って廃止する予定である。^⑯</p> <p>大阪成蹊短期大学国文学科、英文学科及びデザイン学科については、平成15年4月1日に学生募集を停止し、文部科学省に廃止申請を提出し、平成16年5月31日付廃止した。成安造形短期大学は、平成15年4月1日に学生募集を停止し、平成15年度に単位取得不足の学生が3名在学しているため、この学生の卒業を待って廃止する予定である。^⑰</p> <p>成安造形短期大学は、平成15年4月1日に学生募集を停止し、単位取得不足のため在学していた学生が平成18年3月に卒業したことに伴い、平成18年4月文部科学省へ廃止申請を提出した。^⑱</p> <p>成安造形短期大学は、平成15年4月1日に学生募集を停止し、単位取得不足のため在学していた学生が平成18年3月に卒業したことに伴い、平成18年4月文部科学省へ廃止申請を提出し、平成18年6月14日付 廃止の認可を受けた。^⑲</p>	

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (16年3月9日)	現代経営情報学部現代経営情報学科、びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部及び大阪成蹊短期大学児童教育学科幼児教育学専攻の定員超過の是正に努めること。	<p>現代経営情報学部については、昨年度入試のデータを綿密に分析し、各試験の合格者の割合、歩留率を慎重に再検討し、判定した結果、平成16年度は1.13の超過率にとどめることができた。なお、この結果、開学以降2カ年の平均超過率は1.24となった。びわこ成蹊スポーツ大学については、昨年度入試のデータを綿密に分析し、各試験の合格者の割合、歩留まり率を慎重に再検討し、判定した結果、平成16年度は1.30の超過に留めることができ、開学以降2カ年の平均超過率は1.31となった。児童教育学科幼児教育学専攻については、平成16年度の超過率は1.26となり、さらに改善を図った。⑯</p> <p>現代経営情報学部については、昨年、一昨年の入試のデータを綿密に分析し、各入学試験の合格者の割合を慎重に分析し、平成17年度の超過率を1.06に留め、開学以降3カ年の平均超過率は1.18となった。びわこ成蹊スポーツ大学については、昨年度入試のデータを綿密に分析し、各試験の合格者の割合、歩留まり率を慎重に再検討し、判定した結果、平成17年度は1.17の超過に留めることができ、開学以降3カ年の平均超過率は1.26となった。大阪成蹊短期大学の児童教育学科幼児教育学専攻については、平成16年度の超過率は1.26となったが、平成17年度の超過率についても1.22に抑えた。⑰</p> <p>現代経営情報学部現代経営情報学科については、開学以降これまでの入試のデータを綿密に分析し、各入学試験の合格者の割合を慎重に分析し、平成18年度の超過率を1.10に留め、開学以降4カ年の平均超過率は1.15となった。びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部については、昨年度入試のデータを綿密に分析し、各試験の合格者の割合、歩留まり率を慎重に再検討し、判定した結果、平成18年度は1.16の超過率にとどめることができ、開学以降4カ年の平均超過率は1.23となった。大阪成蹊短期大学児童教育学科幼児教育学専攻の平成18年度の超過率については、1.17に抑えた。⑱</p> <p>現代経営情報学部現代経営情報学科については、開学以降これまでの入試のデータを綿密に分析し、各入学試験の合格者の割合を慎重に分析し、平成19年度の超過率を1.08に留め、開学以降5カ年の平均超過率は1.14となった。びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部については、昨年度入試のデータを綿密に分析し、各試験の合格者の割合、歩留まり率を慎重に再検討し、判定した結果、平成19年度は1.20の超過率にとどめることができ、開学以降5カ年の平均超過率は1.23となった。大阪成蹊短期大学児童教育学科幼児教育学専攻の平成19年度の超過率については、1.02に抑えた。⑲</p>	<p>児童教育学科幼児教育学専攻およびびわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部においては、今後とも過去の入試データ等を綿密に分析し、定員超過の是正をはかっていきたい。⑯</p> <p>児童教育学科幼児教育学専攻およびびわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部においては、今後とも過去の入試データ等を綿密に分析し、定員超過の是正をはかっていきたい。⑰</p> <p>今後とも過去の入試データ等を綿密に分析し、定員超過の是正をはかっていきたい。⑱</p> <p>今後とも過去の入試データ等を綿密に分析し、定員超過の是正をはかっていきたい。⑲</p>
設置計画履行状況 調 査 時 (19年3月1日)	大阪成蹊短期大学児童教育学科初等教育学専攻の入学定員超過の是正に努めること。	入試のデータを綿密に分析し、各入学試験の合格者の割合を慎重に分析し、平成19年度の超過率を1.10に留め、平成15年度以降5カ年の平均超過率は1.26となった。⑲	今後とも過去の入試データ等を綿密に分析し、定員超過の是正をはかっていきたい。⑲